

大阪中央ダイカスト 株式会社

多彩なダイカスト製法で 強度と品質をアップ

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



超低速ダイカスト専用棟

業務内容 ダイカスト製品と 樹脂成形品のかん合が容易

創業以来、アルミ、亜鉛合金のダイカストを柱にしてきた大阪中央ダイカストは、製品の軽量化に伴うプラスチック部品の需要の高まりを受けて樹脂射出成形も行っている。

「アルミ、亜鉛合金のダイカスト会社がプラスチック成形をするケースは少ないです」と神田社長。アルミと樹脂をそれぞれ別会社が発注すると、微妙なサイズの狂いが生じるが、1社で請け負えば組み合わせ問題が解消できる。顧客の満足度は高く、現在は電器、自動車、建築金物、産業機器メーカー等、150社以上から信頼を得ている。

強み

さまざまな製法を駆使し
高品質な製品を生み出す

顧客が求める強度や品質に応えるため、同社は独自の製法「超低速（層流）ダイカスト法」を取り入れている。溶湯を低速で充填し高圧で凝固させるため、内部の巣が減り強度が高まるのだ。2.74g/cm³と高い密度を実現しており、強度があるため自動車のエンジンマウントにも使用されている。

また、金型キャビティ内を吸引減圧させる「減圧ダイカスト法」を使うことで、外観巣が激減。精密機



製品群

械部品で高い評価を得ている。同社オリジナルの部品を使用すれば、マシンを連続して稼働させられるため生産効率が上がる。一方、内部のひけ巣の発生を抑える「精密局部加圧法」では、加圧部の耐圧気密性が向上。カーエアコンのコンプレッサー部品等での実績が豊富だ。

設備力

スピードで正確な
流動解析

同社の金型方案の提示は、非常にスピーディだ。金型内への溶解金属流入や凝固する過程を解析しシミュレーションして見せる。従来なら実際に金型をつくって試作を繰り返していた過程が短縮されるため、設計から製作までのリードタイムが大幅に短くなり顧客に好評だという。

また、同社の誇る設備には、9基の双子炉がある。国内でも希少なこの設備は、溶湯の品質安定に貢献している。

今後の展望

日本の産業界と雇用の
ためあえて国内で活動

多くの企業が活動の拠点を海外に移す中、同社はあえて国内にとどまるといふ。

「日本だからできるものづくりを提供したい」と神田社長。その思いは先代（現会長）から受け継いだもの。顧客のニーズに合わせて多品種・少量生産を展開したいと話す。従業員に必要な研修を受講させ、技術と知識の向上に努めるのもそのためだ。業界をリードする存在として、ますます活躍してくれるだろう。

COMPANY PROFILE

大阪中央ダイカスト株式会社

大阪
23

ISO 9001
ISO 14001

当社の 歴史

昭和29年に大手家電メーカーのダイカスト部品の製造からスタートしました。取引先の業種が増えるに従って設備を増強。時代のニーズに合わせて昭和43年にプラスチック事業部を設立しました。アルミ、亜鉛合金ダイカストだけでなく、プラスチック成形ができる点が当社の強みです。さらに高い品質要求に応えられるよう、研鑽してまいりたいと思います。

常に全力でスピード対応を心掛け、お客様の
要望に100%応え続けていきます。

代表取締役社長 神田 恵吉さん



■主な事業内容

アルミ・亜鉛ダイカスト製品、樹脂成形品の製造

■主な取引先（納入先）

建築金物メーカー、電器メーカー、自動車部品メーカー、産業機器関連メーカー等

住 所／〒574-0063
大東市南郷町8-8
TEL／072-871-0021
FAX／072-875-0230
創 業／昭和29年4月
設 立／昭和36年4月
資本金／4,800万円
従業員／200名

<http://www.osakacyuo.com/>